

第6回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり

協議会資料

令和3年 3月

目次

令和2年度 活動報告	1
部会等の内容について	1
第5回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会議事概要	2
東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第27回部会）議事概要	7
東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第28回部会）議事概要	9
東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会 （第4回新大阪駅東口まちづくり部会）議事概要	12
東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第29回部会）議事概要	15
今後の取組みスケジュール	18

令和2年度 活動報告

第27回まちづくり構想部会から第29回まちづくり構想部会において、各地域の取り組み等を報告し合うことにより情報の共有や意見交換等を行ってきました。また、今年度はコロナ禍の影響が大きく各地域内でのワークショップの開催などが困難だったため、アクションプラン作成に向けてまちづくり構想部会のメンバーでワークショップを行いました。なお、第30回まちづくり構想部会については、緊急事態宣言下だったため資料配付による書面開催としました。

新大阪駅東口まちづくり部会は、市営住宅の建替え計画が具体化されることを受けて、余剰地案と併せてまちづくり範囲案を提案し、地域住民の意見を活かしたまちづくりビジョンの検討を行うことを確認いただき、地域説明会を開催しました。

日程	会議	検討内容など	
令和2年	7月14日	第5回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会	まちづくり構想部会開催報告
	7月14日	第27回まちづくり構想部会	ワークショップ開催報告等について
	8月28日	西淡路地域打合せ	第28回まちづくり構想部会について
	9月10日	第28回まちづくり構想部会	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度のまちづくり構想部会の進め方について ワークショップ開催報告等について アクションプラン作成に向けたワークショップ
	10月12日	第4回新大阪駅東口まちづくり部会	<ul style="list-style-type: none"> 余剰地の検討について まちづくりの範囲について
	11月12日	第29回まちづくり構想部会	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ開催報告等について アクションプラン作成に向けたワークショップ
	12月1日	西淡路地域説明会	<ul style="list-style-type: none"> 新大阪駅東口まちづくり部会について 意見交換
令和3年	1月	第30回まちづくり構想部会(書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> 資料配付による書面開催 アクションプラン作成に向けた資料配付
	3月11日	第6回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会	<ul style="list-style-type: none"> まちづくり構想部会開催報告 新大阪駅東口まちづくり部会開催報告
	3月11日	第31回まちづくり構想部会	ワークショップ開催報告等について

部会等の内容について

今年度の活動の記録として各部会（書面開催のため第30回まちづくり構想部会を除く）の議事概要を次頁から掲載しています。

第5回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会議事概要

日 時：令和2年7月14日（火）午後7時～午後8時

場 所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

1 開会

2 会長（区長）あいさつ

3 議題

(1) 平成31(令和元)年度活動報告について

(2) 令和2年度の活動方針について

4 情報提供

・新大阪駅周辺地域緊急整備地域検討会議について

・阪急連続立体交差化事業進捗状況について（DVD放映）

5 その他（意見交換）

6 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 協議会座席表
- ・ 第5回東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会資料
- ・ 新大阪駅周辺地域再生緊急整備地域まちづくり方針の骨格【概要版】

1. 開会

2. 会長（区長）あいさつ

3. 議題

(1) 平成31(令和元)年度活動報告について

(事務局)

- ・まちづくり構想部会は、5月、7月、9月、11月、12月に開催した。また、本日のまちづくり協議会后、第27回まちづくり構想部会を開催する。
- ・まちづくり構想部会では、2年前に策定したまちづくり構想の実現のため、各地域で活動報告やワークショップでの議論、発表、情報共有、アクションプランの調整等を行っている。今後はこれらの取組を生かし、課題認識からアクションプラン作成へ続いてほしいと考えている。
- ・話題提供者を招き、地域内の状況を知るために北陸新幹線の環境アセスメントの状況や柴島浄水場の現在の工事内容、新大阪駅周辺地域緊急整備地域検討協議会や阪急連続立体交差事業の進捗状況等の報告をしていただいた。緊急整備地域検討協議会と阪急連立事業については、今日の協議会でもご報告をいただく。
- ・また、各地域の共通の課題の1つである担い手不足については、摂津まるごとマーケットを手掛けている団体の代表を招き、イベント運営の仕組みや担い手を増やしていく考え方などについてご示唆いただいた。
- ・平成31年度活動報告の表に、各地域の部会員様を中心とした打合せやワークショップ等、事務局で把握できている内容について記載している。以上、平成31年度活動報告である。

(補足及び質疑応答)

- ・特になし。

(2) 令和2年度の活動方針について

(事務局)

- ・まちづくり協議会は、来年3月に各部会の報告の予定をしている。また、まちづくり構想部会も、2か月に1回、全5回の開催を予定している。
- ・各地域のワークショップについては、各地域の部会員と連携を図りながら調整する予定である。
- ・新大阪駅東口まちづくり部会については、都市整備局で行っている住宅の概略設計の進捗により別途調整をする。

(補足及び質疑応答)

- ・特になし。

4. 情報提供

・新大阪周辺地域緊急整備事業について

(都市計画局)

- ・平成30年8月に都市再生緊急整備地域の候補地域として、新大阪周辺地域が指定された。これを受けて、新大阪駅周辺のまちづくりについて、国や大阪府、大阪市が一体となり、事業を進めるための検討協議会が平成31年1月に立ち上げられた。以降、3回の会議を踏まえ、今年の3月にとりまとめたまちづくりの方針の骨格について報告する。
- ・国は東京都市圏や大阪都市圏という概念をなくし、東京から大阪までを一体的な都市圏だと考え、スーパー・メガリージョン構想として計画を進めていくようである。
- ・リニア中央新幹線の完成は2037年頃を予定しており、新大阪駅周辺のまちづくりについても、20年から30年先を見据えた、長期的なプランを計画的に進めていこうと考えている。
- ・検討対象地域は新大阪駅が中心になるが、大きなプロジェクトなので、周辺にも開発効果が波及していく。そのため、東淀川区の淡路地域や淀川区の十三地域までの広域的なエリアで、検討を進めていく方針を考えている。
- ・新大阪駅は今後、リニア中央新幹線や北陸新幹線も通るようになり、複数の新幹線が乗り入れる大きな広域的なターミナル駅になる。また、付近には高速道路の整備が進められており広域的な交通の結節点になっている。それらのポテンシャルを生かすような、まちづくりをしていきたいと考えている。
- ・そして、世界規模の広域的な視点でまちづくりを考えている。メガリージョン構想の中で、大阪が一番西側、アジアに近い位置にあり、長期的な世界交流の中で大きく発展するようなターミナルを目指す。
- ・さらに、新大阪駅の国内の地理的な条件についてもまとめている。新大阪駅は東京から九州まで続く国土軸と、地下鉄御堂筋線を軸とした大阪の都市軸がクロスしているポイントで、今後は新幹線の整備等で更に発展し、人や情報が集まるといった価値が引き出されていく。
- ・こうした背景を踏まえ、新大阪が担うべき都市機能を3つ掲げている。

- ・1つ目は、交流促進機能である。広域的に人が行き交うようなターミナル駅になると予想されるので、ビジネス・産業・観光といった複数の目的で、多様な人の交流が生まれる都市空間を作っていくことを掲げた。
- ・2つ目は、交通結節機能である。新大阪は国内最大レベルの新幹線や高速道路のターミナル駅になるので、複数の交通手段の乗り換えの利便性も含めて、交通結節機能を果たすことを掲げた。
- ・3つ目は、都市空間機能である。便利で使いやすいターミナルにしていくだけでなく、中心部にシンボルとなるゆとりの空間を設け、魅力ある空間が人を惹きつける街にしていくことを掲げた。
- ・現状の検討協議会では国や大阪府、事業者等と協議し、大まかな方向性を決めた段階に留まっている。
- ・リニア中央新幹線や北陸新幹線については、それぞれ別の駅が整備されると伺っている。駅の位置が都市開発の中で非常に大きな役割を果たすため、駅の位置が決まってきた段階で、駅前広場や大きな民間開発のゾーニングなどの具体的な議論を進めていきたいと考えている。しかし、駅の位置は1年以上先にならないと決まらない見込みである。

・ 阪急連続立体交差化事業進捗状況について（DVD 放映）

- ・連立事業の概要動画を視聴し、工区が8つに分かれていることや工法・事業進捗について確認した。

・ 令和2年度活動予定について（質疑応答）

（委員・部会員）

- ・駅の位置が定まらなると次のゾーニングなどの検討に進んでいかないことや、計画では広域なエリアを取り扱うことは分かった。しかし、淡路地域等の周辺地域の話は、駅位置の決定等に関わらず、具体化してもよいと思う。今後具体化していくスケジュール、計画の流れを教えてください。
- ・また、新大阪駅周辺のゾーニングについて議論が進んでいくことは分かったが、それ以外の淡路地域等の周辺地域は後回しになるということか。

（都市計画局）

- ・新大阪駅周辺が決まってから他の地域の検討をするのではなく、一体として検討したいと考えている。
- ・スケジュールについては駅の位置が検討の基準になるので、駅の位置が決まらなるとスケジュールの目途は立て辛いと考えている。

（委員・部会員）

- ・国際交流、観光といった部分について、コロナ禍の影響による計画の見直しの議論はされているのか。

（都市計画局）

- ・現時点では、計画の見直しについての議論には至っていない。ただ、今も続いている状況を踏まえ、社会や生活の様式が変わっていくかもしれないと受け止めている。
- ・本日説明した内容は今年の3月時点のものなので、コロナ禍の状況を考慮できていない計画になっている。今後、コロナ禍の状況に合わせてバージョンアップしていこうと考えている。

5. その他（意見交換）

（委員・部会員）

- ・今後、お願いしたいことを3点申し上げる。
- ・1つ目は、住民参加のまちづくりをしていただきたい。
- ・2つ目は、区や国のビジョン、また阪急といった事業者のビジョン、そして私達住民のまちづくりビジョン、これら三位一体になったまちづくりを行っていただきたい。
- ・3つ目は、ローカルエリアごとのまちづくりに対するご意見を国の計画に反映していただきたい。
- ・地域ごとの保健福祉計画とローカルエリアのまちづくりビジョンを区の計画に位置付けることを目指していきたい。
- ・新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域について、これまでに国や企業、学識経験者により3回議論されているが、私は国や企業、学識経験者だけによる、まちづくりではダメだと思っている。各地域からご意見を伺い、国レベルの計画に地域住民の意見を反映して貰いたい。
- ・構想部会の代表やメンバーから国の計画の委員に入ることはできなかったが、区長にオブザーバーとして入っていただいているので、地域住民の意見と国の検討会の意見が合わさるような形で住民参加のまちづくりをしていただきたい。
- ・阪急の立体交差事業は令和6年には切り替えが進むとのことで、協力をしていきたい。ただ、これについても各地域の意見を踏まえて進めていただきたい。

（会長）

- ・区役所としてもまちづくりは地域の声を生かして、区の将来ビジョン、新大阪駅周辺エリアの将来ビジョンを、運用計画の中へ落とし込んでいく必要があると思っているので、引き続き協力をお願いする。

（近畿大学 久教授）

- ・街の変化に先駆けて、西部地域バリアフリーまちづくり構想を作ったことで、地域の将来の方向性を地域内で共有できてよかったと思う。緊急整備地域の議論にも、西部地域バリアフリーまちづくり構想が1つの大きな資料として活用いただければと思う。
- ・そして、このようなビッグプロジェクトでは大きなお金も動くし、下手をすると住民の住環境も変わる。住環境の話の横に置きながら進めてしまうことは危険だと思う。
- ・新大阪駅を作る際の区画整理事業の結果、新大阪駅の西側はオフィス街となった。しかし、東側は半分を住環境とした良好な地域であることを配慮しながら、緊急整備地域の検討を進めていただきたい。
- ・西区はオフィスと住宅がうまく共存し、公園や緑も多い地域なので、西区のような雰囲気住環境も保ちつつ、オフィスも配置できるようなイメージが良いと思う。
- ・部会員からもあったがコロナ禍については、私も議論せざるを得ない問題だと思う。以前はグローバル化の方針が強かったが、コロナ禍の影響により世界中でローカルな視点が見直されている。これからは、グローバルとローカルをどのように組み合わせていくのかも、非常に重要な観点になると思う。

- ・黒門市場がその事例の1つで、ここ数年間、海外の観光客を中心に賑わっていた。しかし、コロナ禍の影響で賑わいが失われている。そこで、もう一度地域の人に支えられてこそその黒門市場ではないかと見直しがされている。
- ・海外の観光客だけに頼ってしまうと、海外の状況が変わった時に地域は大打撃を受けてしまう。今後は地域の住民を大きな柱として、開発は進んでいくのではないかと期待している。
- ・最後にもう1つ、約50年前にできた千里ニュータウンが、今、再生で非常に苦心していることがある。市民活動等の活動拠点を千里ニュータウンの中で取りたくても、近隣センターや地区センターでしか、活動拠点や事務所を置けない状況で、月数十万円の家賃を払わないと借りることができない。活動拠点がないと、市民活動は難しいと思う。ところが東淀川区西部地域では、月数万で借りられる物件が多くある。つまり、東淀川区西部地域は千里ニュータウンと違い、市民活動がやり易いということである。
- ・大きな資本の動きだけでまちを変えるのではなく、市民活動といった地道なまちづくりも、大きな資本を投入するまちづくりも、両立して行うことが重要になると思う。
- ・検討会議に阪急から参加している方は、20年ほど前から曾根地域のまちづくりをやってこられた方で、私も一緒にやらせてもらった。そういった地元密着の視点がある方が、検討会議に入られているのは良かったと思う。
- ・我々が築き上げたまちづくり構想を、もう一つの柱として大切にしていきたいと、私の方から再度念を押しておきたい。

(会長)

- ・区役所も積極的にかかわっていくが、本日出席いただいている、皆さまのお力添えが必要となるので、引き続き協力をお願いしたい。
- ・特に地域活動協議会の会長には部会長、部会員の地域でのアクションプラン策定の具体的な活動に際して、お力添えを引き続きお願いしたい。

6. 閉会

- ・次回の協議会は令和3年3月11日開催予定。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第27回部会）会議録

日時：令和2年7月14日（火）まちづくり協議会終了後～午後8時20分
場所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 令和2年度の活動方針について
 - (2) 新庄地域保健福祉計画について
- 4 その他（意見交換）
- 5 閉会

≪配付資料≫

- ・ 議事次第、構想部会座席表
- ・ 新庄地域保健福祉計画 パンフレット
- ・ 新庄地域保健福祉計画 資料編
- ・ 淀川北岸線（暫定整備道路）の対面通行化および横断箇所の変更のお知らせ

1. 開会

2. 部会長あいさつ

3. 議題

(1) 令和2年度の活動方針について

(部会長)

- ・ 次回部会の日程は9月10日開催を予定している。会場は本日と違い、東淀川区役所出張所にて開催予定である。各地域の取り組みの状況等を報告して頂ければと思う。

(2) 新庄地域保健福祉計画について

- ・ 計画作成のために平成30年からアンケート調査などをはじめ令和2年初頭、およそ3年半かけて計画が完成した。
- ・ 計画作成までに地域で学習会を1回、ワークショップを4回、策定会議を6回開催した。計画完成後にお披露目会として報告会を開催した。
- ・ ワークショップは当初3回予定だったが、議論が盛り上がり具体的に取り組むことも考えようと4回目を実施した。
- ・ 計画の5つのテーマ「健康や見守り」、「コミュニティやつながり」、「子育てや教育」、「住環境」、「安全・安心」はアンケート結果から抽出し、テーマ毎にグループを分けてワークショップを行った。
- ・ ワークショップで抽出した具体的な対応策等をまとめて冊子にしたものがこの保健福祉計画である。
- ・ 具体的な対応策は3つに分類して整理を行った。短期目標はすぐにできること、中期目標は段階的にできること、長期目標は将来できたらいいなということを整理した。短期目標の中には、既に地域で行っている活動も入っている。
- ・ 保健福祉計画を作成したことで、活動を具体化するための目標を理解することができた。
- ・ 「住環境」は中期目標の中で阪急電鉄や構想部会と連携して進めたい。「安全・安心」は防災リーダーの増員と若返りを掲げている。
- ・ コロナ禍の影響で進めていくことが難しいテーマもあるが、この保健福祉計画があること

で新庄地域が目標に向かって進むことができる。

以上、新庄地域保健福祉計画について部会員から説明を受けた。

4. その他（意見交換）

久教授のアドバイス要旨

- ・既に行っている活動が計画に入っていることは、非常に大きなポイントである。これまでの活動がワークショップを開催して計画にまとめられたことで、体系化される。ある目標に対してのそれぞれの活動の位置付けや同じ目標を持っている活動同士の関係も見えてくる。
- ・これから作成される地域は、計画に記載する活動の95%がこれまでの活動と同じでもいいと思う。地域の活動を目標に沿って体系化することが保健福祉計画のポイントである。
- ・新庄地域で行われたワークショップでは、参加者がお互いの思いを共有できたということが良いポイントだと思う。そのことで連携も強化できた。ワークショップを開催できたことも成果である。
- ・今、ある市では15年前に作成された各小学校区のまちづくり計画を見直している。見直しを始める時にある小学校区のまちづくり協議会の会長が「今は私が会長だが、私はこの計画があることを知らなかった。」と仰っていた。15年前に当時の役員だけで計画を作成し、15年間で役員が入れ替わり、今の会長は計画の存在すら知らなかったのである。そこで今回の計画の見直しでは、色んな世代の人たちに関わってもらい、世代交代があっても計画の存在を知っている人がいるようにしたいので、役員だけで計画を作るのはやめようという話になった。
- ・今後、計画を作成される地域では、様々な世代が計画作成に関わり、計画そのものを受け継いでいけるようにしてもらいたい。そのためにできるだけワークショップを開催し、現役員以外の方の意見も反映して頂きたい。
- ・次回以降に、どうすれば良い雰囲気を進めることができるのか、計画を作成した地域の方々からお知恵を借りながら進めていけたらと思う。

（事務局）

- ・「淀川北岸線（暫定整備道路）の対面通行化および横断箇所の変更のお知らせ」を配付している。また、ご確認頂きたい。

5. 閉会

- ・次回の部会は9月10日午後7時から開催予定。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第28回部会）会議録概要

日時：令和2年9月10日（木）午後7時～午後8時30分
場所：東淀川区役所出張所3階多目的室

【議事】

- 1 開会
- 2 部会長あいさつ
- 3 議題
 - (1) 令和2年度構想部会の進め方について
 - (2) アクションプランの作成に向けて
 - (3) ワークショップ等開催報告及び意見交換
- 4 情報提供
 - ・ 阪急淡路駅前駐輪場の閉鎖について
- 5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 構想部会座席表
- ・ ワークシート
- ・ 阪急淡路駅前駐輪場の閉鎖について

1. 開会

2. 部会長あいさつ

3. 議題

(1) 令和2年度構想部会の進め方について

(部会長)

- ・ 今年度の進め方として3つのことを考えている。
- ・ 1つ目は、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想を基に地域のアクションプランを作成するために、継続して情報交換、情報共有を積極的に行うべきだと考えている。
- ・ 来年度の東淀川区全体の保健福祉計画の見直しと区全域のまちづくりビジョンの改定に向け、各地域のアクションプランを区のビジョンに反映できるよう、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想を基にブラッシュアップしたい。そこで、各地域のつぶやきなどを拾っていこうと考えている。
- ・ 2つ目は、住民発のまちづくりをしていきたいと考えているが、新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会の検討や阪急連続立体交差化事業などの大きな計画も見据えてもらいたいと考えている。
- ・ 3つ目は、コロナ禍の情勢を考慮した上で地域のアクションプランを検討してほしい。情勢の変化に対応しきれない課題もあると思う。また、今までと同様の支援ができなくなるということも考えられる。本日のワーキングを通して、東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想の実現に近づけたいと考えている。

(2) アクションプランの作成に向けて

(事務局)

- ・ 地域のアクションプランの作成を進めていくためのワーキングを行いたいと考えている。進行は日

本インシークに願います。

(日本インシーク)

- ・ワークシートの説明を行い、地域課題についてのワーキングを行った。
- ・コミュニケーションの場が減っているなど、頂いた意見を基にワークシートのバージョンアップを行う。

(3) ワークショップ等開催報告及び意見交換

・意見交換内容要旨

- ・子どもたちの第3の居場所づくりについて、学校施設などを拠点とした地域活動で子どもたちの居場所を確保していることを再確認した。
- ・コロナ禍における高齢者を対象とした会食型の食事提供について、弁当などを配付する方法へ切り替えている地域があることを確認した。活動は行えているが高齢者の方の様子からコミュニケーションの場が減っていることが新たな問題に思える。
- ・他の行事でもこれまでとは違う対応をしていることや不急であるものについては実施しにくいということを確認した。

・久教授のアドバイス要旨

- ・ワーキングで、コロナ禍の中での地域の取り組み活動についての情報交換ができて良かったと思う。
- ・コロナ禍の中で誰が責任をとるかの話をすると何もできなくなってしまうため、責任は各個人が負うことにしないと活動が進んでいかないと思う。
- ・大学の1年生は学校に来られない状況が続いている。対策として、7月に交流を深める場を1年生に対し自己責任を承知の上で募ったところ、1年生全体の6割程度の参加者が集まった。
- ・ある地域でのサロン活動は、長時間利用したい方も、30分の参加をした後に一度30分席を外してもらう工夫をしていて、今後のいきいきサロンの運営の参考にできると思う。
- ・摂津市の地域活動をしている方々からネットワークを通じて情報交換ができる掲示板などがあつたら良いという意見があつた。
- ・ある市のまちづくり計画の見直しについては、校区ごとに、議論内容に温度差があり、住民同士で話し合いができた校区もあれば、役員だけで話し合った校区もあつた。また、計画策定のガイドラインが公開されているので、地域のアクションプランづくりの参考にできると思う。
- ・東淀川区が特別区に指定された場合の懸念する点として、都市計画の権限が区から府に変わるため、管轄する行政が遠い存在になってしまうことがあげられる。そのため、特別区になった際には、それに対応した仕組みを考える必要がある。
- ・国勢調査員の募集を困っている地域は若い世代に声をかけるのも1つの方法である。地域活動に参加する若い世代も手当てを求めている。お金が貰える国勢調査から仕事として地域に関わることで地域に興味を持ってもらい、そこから他の地域活動に参加してもらうという流れで、若い世代の発見にも繋がる可能性がある。

4. 情報提供

- ・ 阪急淡路駅前駐輪場の閉鎖について

(事務局)

- ・ 阪急淡路駅前に隣接するスーパーマーケットのアカシア前駐輪場が、阪急連立工事の進捗により 10 月 4 日午後 9 時をもって閉鎖する。閉鎖に伴う代替駐輪場はないため、周辺の駐輪場の利用か徒歩での移動をお願いします。

5. 閉会

- ・ 次回の部会は 11 月 12 日午後 7 時から出張所 3 階多目的室で開催予定。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会(第4回新大阪駅東口まちづくり部会)
会議録

日 時：令和2年10月12日(月)午後7時～午後7時20分

場 所：東淀川区役所3階区民ホール

【議事】

1 開会・部会長挨拶

2 議題

- (1) 余剰地の検討について
- (2) まちづくり範囲の検討
- (3) その他

3 情報提供

- ・第4回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議

4 閉会

- 連絡事項など

《配付資料》

- ・議事次第
- ・座席配置図
- ・第4回新大阪駅東口まちづくり部会資料
- ・第4回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議

1. 開会・部会長挨拶

2. 議題

(1) 余剰地の検討について

(事務局)

- ・前回の部会から時間が経過しているため、これまでの経過も含めて説明する。
- ・当部会は平成29年3月30日に発足し、第1回部会では「大阪・東淀川区の玄関口にふさわしいまちづくり」、「人権を尊重するひとにやさしいまちづくり」、「駅に近接する幹線道路沿道にふさわしいまちづくり」をテーマとし、学識経験者のアドバイスを受けながら、地権者、地域、行政が新大阪駅東口から概ね0.5kmの半円内を対象に、まちづくりに必要な事項を主な活動とし連携・協働していくことを確認した。
- ・平成29年8月8日に第2回部会を開催し、直近で進めるべき事が「市営住宅の耐震性の確保及び居住水準の向上」、「地域まちづくりへの貢献」であることを確認し、市営住宅の建替を早期に再開することで合意いただいた。
- ・平成31年1月17日に第3回部会を開催し、市営住宅の建替え位置をもと日之出住宅7号館跡地に変更することに合意いただいた。
- ・第3回の部会以降、住宅の建替え範囲について検討し、余剰地について3案提案したい。
- ・A案、B案については、土地の南側に隣接する東西道路を軸とした配置に、C案については、土地の東側に隣接する南北道路を軸とした配置とした。
- ・まちづくりのポテンシャルとして用途地域の割合の違いや自動車の交通量の観点から整理を行った。
- ・今回の提案内容については、地域へ持ち帰っていただき、住民の皆さんのご意見を集約していただき、次回の部会で余剰地を確定させたいと考えている。
- ・以上、簡単ではありますが、議題の提案とさせていただきます。

(意見、質疑応答等)

- ・特になし。

(2) まちづくり範囲の検討

(事務局)

- ・議題（1）余剰地を含む範囲と、東海道新幹線南側の大阪市と阪急電鉄が所有する土地を含めた範囲をまちづくりの範囲として検討している。東海道新幹線南側の大阪市用地については、土地の境界や越境物の処理などの土地の商品化のめどが立っているものについてまちづくり範囲に含めている。
- ・今後は、地域住民の意見を聴く機会を設けていただき、年明けには部会を開催し、頂いた意見を反映させ、この地に相応しい土地利用についてご議論いただききたいと考えている。
- ・余剰地と同様に地域へ持ち帰っていただき、住民の皆さんの意見を頂きたいと考えている。この土地でどのような土地利用を望むのかという点も、ご意見を頂きたいと考えている。

(意見、質疑応答等)

- ・特になし。

(3) その他

久教授のアドバイス要旨

- ・事務局から示して頂いた余剰地の3案について、個人的にはC案が一番スッキリしているように思う。
- ・A、B案は市営住宅側の街路を施設の利用者が車で通る可能性が出てくる。
- ・計画論的に見るとC案は、西側が日之出会さんと市営住宅の土地の一体性が出てくる。東側がまちづくり用地とゾーニングができていますので、敷地割りもスッキリしているように思う。勿論、地元の思いもあると思うのでご検討して頂ければと思う。

3. 情報提供

・ 第4回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会会議

(事務局)

- ・10月6日に第4回新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会が開催された。当日の配付資料の内容について、簡単にご説明させていただき情報提供とさせていただく。
- ・資料1では、これからの取り組みとして、導入すべき3つの機能の検討、まちづくり方針の策定などに取り組むことが示されている。
- ・資料2では、新大阪駅周辺地域のプロモーションとして、地域の動きを広くアピールすることで都市開発や機運醸成へつなげていくことが整理されている。具体的プロモーションの取り組みとしては、シンポジウム・セミナーの実施や広報媒体などを活用した情報の拡散、意見交換のほか海外からの投資につなげる情報発信手法の検討として、9月24日に実施されたシンガポール政府機関とのセッションが示されている。
- ・資料3では交通結節機能の強化に向けて、鉄道・まち・道路の構成別に検討すべき項目が示されています。具体的には、淀川左岸線の整備による利便性や、人・車・利用者が最適な区間整備を図るなどの方向性が示されています。

- ・以上、事務局からの情報提供とさせていただきます。

(意見、質疑応答等)

- ・特になし。

4. 閉会

(部会長)

- ・本日、事務局から余剰地案とまちづくりの範囲について提案させていただいた。地域住民のご意見をしっかりとこのまちづくりビジョンに反映させるよう努めたいと考えている。
- ・次回の開催については、年明けの開催を念頭に各地域での意見集約をお願いしたい。

(事務局)

- ・次回の部会開催は事務局より改めて、日程調整含めて連絡をする。

以上

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり協議会（第29回部会）会議録概要

日時：令和2年11月12日（木）午後7時～午後8時10分
場所：東淀川区役所出張所3階多目的室

【議事】

1 開会

2 部会長あいさつ

3 議題

- (1) アクションプランの作成に向けて
- (2) ワークショップ等開催報告及び意見交換
- (3) SNS（Face_book）の活用について

4 その他

- ・次回部会予定 令和3年1月14日（木）午後7時から
東淀川区役所出張所 3階多目的室

5 閉会

《配付資料》

- ・ 議事次第
- ・ 構想部会配席図
- ・ 資料-1 ワークシート
- ・ 資料-2 SNS（Face_book）の活用について

1. 開会

2. 部会長あいさつ

3. 議題

(1) アクションプランの作成に向けて

(部会長)

- ・ワーキングの前に10月6日に開催された第4回新大阪周辺地域都市再生緊急整備地域検討協議会について少し報告したい。
- ・今検討されている新大阪周辺のまちづくりを「WITHコロナ」におけるまちづくり全体の基礎にしていきたいという提案があった。日本の玄関口といったこれまで議論されてきた言葉と共にソーシャルディスタンスといったWITHコロナ時代の言葉も多く述べられ、これからのまちづくりの先駆的な役割を果たしたいという議論があった。

(事務局)

- ・地域のアクションプランの作成を進めていくためのワーキングを行う。進行は日本インシークに願います。

(日本インシーク)

- ・前回の構想部会でのワーキングは地域課題について現状整理を行った。今回は今後やりたいことや短期・中期・長期への振り分けといった目標整理を行い、テーマ毎のアクションプラン作成に向けたワーキングを行う。

以上、ワークシートの説明を行い、目標整理についてのワーキングを行った。

・ワークシートについて

(部会員)

- ・全ての活動を一旦アンケートやワークショップで列挙してから、取りとめもなく話合うことが最初の取り組みだと思う。そこから、短期、中期、長期への振り分けを行った。既に行っている活動は短期、短期の活動から派生して行えるかどうかで中期、長期に振り分けた。
- ・コロナ禍では実施できていない活動が多く短期目標で止まっているテーマが多い。これから整理をするのなら、まずは短期目標から整理する方が良いように思う。中期、長期の目標はこれまでの部会で久先生から話があったように、一旦棚に置いてしまっても良いように思う。

以上、先行している地域からワークシートについて意見を頂いた。

(日本インシーク)

- ・頂いた意見を参考にワークシートについて再度検討を行う。

(2) ワークショップ等開催報告及び意見交換

・意見交換内容要旨

- ・人との繋がりとして1つの場で会食するという方法とは別の方法で、人との繋がりを意識できるようにして孤独を解決できないか。
- ・地域で集まるというイベントは難しいが、イルミネーションイベントは実施したいと考えている。
- ・学校施設の利用状況は地域毎に差はあるが、年内中止や年度内中止という地域が増えてきている。
- ・高齢者の方が子ども世代と触れ合う場が減っていることが問題である。
- ・イベントなどの主催者の責任問題について、ガイドラインを準拠し運営している場合は参加者の自己責任といった仕組みにはできないだろうか。

・久教授のアドバイス要旨

- ・アクションプランをこの会議の場だけで作成するのは難しいように思う。部会員の思いは書けるけれども、地域の方たちの意見の確認は必要だと思う。ここから地域までどのように持っていくかは工夫が必要だと思う。アクションプランまでレベルを高めていくのであれば、区役所を含めてこの部会だけの議論では済まないと思う。
- ・コロナ禍における集まる場所について、「コロナ・高齢者・触れ合い」などで検索すると、いくつかの市や社協の情報が出てくる。自治体によっては役所が出しているものもあるので、指針、留意点などは共有したほうが良いと思う。
- ・ある市の社協ホームページでは厚労省の指針を示し、指針を守り集まる場では注意をして欲しいとお願いをしている場合もある。集まらないではなく、注意して集まろうというやり方を工夫したらいいと思う。お墨付きという意味では権限を持っている人間がガイドラインやルールを示すと地域は動き易いと思う。
- ・コロナ禍での生涯学習の方法としてオンライン公民館を紹介する。ZOOMを使用して配信をするという試みが何回かされている。オンライン公民館は先生も市民、生徒も市民の講座が2日間で300講座程度開催されるサマーセミナーというイベントがベースとなっている。サマーセミナーでは先生を募集し、2日間に分けてプログラムを作り、プログラムを配付し、プログラムを見た人が受講したい講座を選んで受講するというイベントで数年開催されている。今年はサマーセミナーをオンラ

インに切り替えたものがオンライン公民館である。

- ・先生を募集し ZOOM にて講座の日時を指定して貰う。講座の日時を集めて番組表のようにまとめてインターネットなどで配付する。ZOOM を使える人なら ZOOM を立ち上げて、受講したい講座を選んで ZOOM で受講するという仕組みである。参考にして頂きたい。
- ・これを応用し ZOOM を使える人限定にはなってしまうが、交流会やイベントを ZOOM で配信するといった新しい形での運営の仕方もあると思う。先生も生徒も自宅から参加できるので参加者が集まらなかった場合でも「誰も集まらなかったので仕方がない、今日はやめておこう」と、今までのイベントよりも軽く進められる面もあると思う。

(日本インシーク)

- ・久教授から指摘を頂いた通り、構想部会の場の意見だけで地域のアクションプランの取りまとめができるとは考えてはいない。各地域の住民の意見を頂いた上で完成するものだと考えている。

(3) SNS (Face_book) の活用について

(事務局)

- ・前回の構想部会で久教授からインターネットを通じて情報交換できる掲示板について話があった。区役所調整した結果、部会員間での意見、情報交換を行うツールとし Facebook のページを開設した。構想部会のメンバーで共有できる新たな場所というかたちで積極的に活用いただきたい。

4. その他

・次回部会予定

(事務局)

- ・次回は年明け令和 3 年 1 月 14 日木曜日午後 7 時から出張所 3 階多目的室で開催予定である。

5. 閉会

以上

今後の取組みスケジュール

●アクションプランの作成（令和3年度～）

東淀川区西部地域バリアフリーまちづくり構想

テーマ毎の活動方針

【まち・施設の整備】

- 様々な災害に対して強いまち
- 保育所、幼稚園、子育て施設の充実
- 多様な世帯構成に対応した住宅の確保
- 駅前の交通結節点の強化、駅間の移動手段
- 住宅地と生活施設をつなぐ交通手段
- 大型店舗、コンビニなどの商業施設
- 駅ナカ施設の充実

【空間づくり・場づくり】

- 明るい駅前空間（交番、街灯、建物）
- 様々な人が集まれる地域の居場所づくり
- だれもが安全に利用できる駅前歩行空間
- お年寄りがちょっと休憩できる空間
- 大人の目が届く子どもの遊び場
- 子どもの第3の場所（学校・家庭以外）
- 歩きたくなるまち（商店主との交流など）

【地域活動】

- 障がい者にやさしいソフト面の取り組み
- 若い世代が活躍できる「楽しい」地域活動
- スポーツや趣味など垣根を越える地域活動
- 地域の行事・文化の継承
- 子どもの見守り活動
- 商店街のコミュニティビジネスへの支援

【情報発信】

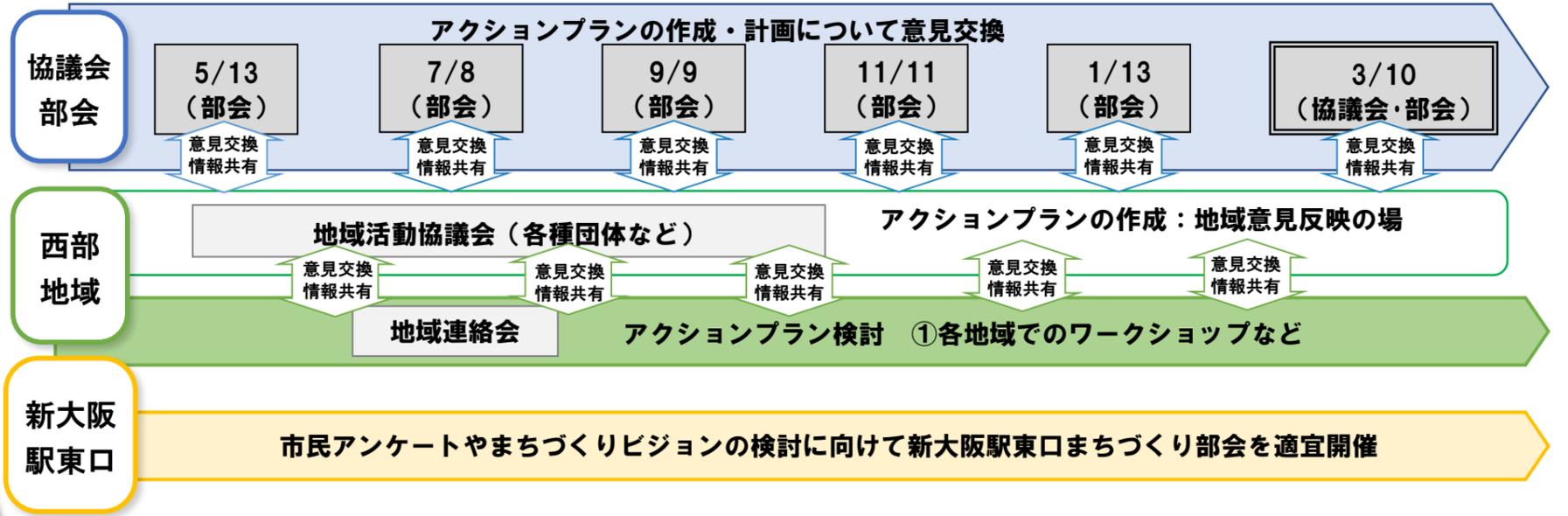
- 情報発信・情報化に対応
- 高齢者への情報伝達
- 情報発信・にぎわいづくりに対応
- 歴史文化施設へのスポット、情報発信

【環境づくり・組織づくり】

- 地域で互いに見守りができる関係づくり
- 社会的な孤立を防ぐ仕組みづくり
- 地域内で住み替えができる住環境づくり
- 若い世代が参加しやすい環境づくり
- 地域活動に参加しやすい環境づくり
- 地域に入りやすい環境づくり
- 女性も決められ、男性も動ける組織づくり
- 「つなぎ役」を増やす環境づくり
- 商店街の結束、後継者育成

●令和3年度「西部地域バリアフリーまちづくり協議会・部会」スケジュール（予定）

- 令和2年度に引き続き、バリアフリーまちづくり構想の具体化に向けたアクションプランの作成を行います。
- 協議会、部会と並行して、各地域でワークショップなどによる優先されるテーマの抽出、具体的な取組みの検討を行い、引き続きアクションプランの作成を目指します。
- 令和2年度に実施したワークシートを参考に、地域におけるワークショップ開催や意見交換を行い、議論を進めます
- 新大阪駅東口の余剰地、まちづくり範囲について、地域や駅利用者など幅広く意見を聴取し、ビジョンの検討を行います。



●検討内容および体制

